

# 介護老人保健施設しおん

症 例 概 要 80代 女性 介護度4

利用期間：令和3年～令和6年7月 / 令和6年9月～令和7年9月

病名：多系統萎縮症・大腿骨頸部骨折・進行性核上性麻痺・左視床脳血栓症

経過：令和6年7月しおん入所中ADL低下の為、A病院へ入院。検査の結果、進行性核上麻痺（リチャードソン脳梗塞）と診断を受ける。

令和6年8月A病院から連絡あり。意識がぼーっとすることが2回あったと報告を受ける。検査の結果、左視床脳血栓症（ラクナ梗塞）と診断を受ける。

令和6年8月主治医より治療は終了との事で退院許可が出て当施設に再入所される。

## 内 容

石巻生まれ。結婚前は北海道で中学校教諭として勤めていた。50代で前の夫と離婚し現在夫と再婚。夫が医師として勤めており主婦として夫を支えていた。

令和6年9月 しおんへ再入所されてからは夫もしおん入所しており「夫と会いたい」「夫ともっと思い出を作りたい」と希望され夫婦で過ごす時間も増えていた。進行性核上麻痺の進行もあり、最初は車椅子での離床ができていたが離床する事も難しくなりベッド上での生活が多くなってきた。同時に食事摂取は徐々に困難となり食事形態変更するも食事摂取は出来ず令和7年6月より点滴装置となり、ご本人、ご家族の意向を尊重し看取り対応となった。

その頃よりご本人・夫より「家に行きたい、庭にある神社にお参りしたい」と希望があり、『夫婦で自宅への外出』を目標に医師・看護師・リハビリ・介護・相談員等と他職種連携の上、外出に向けての話し合いを行い医師から短時間での外出許可が下りた。

外出が出来る事が決まってからは担当リハにリクライニング車椅子への移乗とポジショニングの確認、看護師による体調管理、介護では日々の状態の変化に気を配りながら外出の為の配車の手配等を行い体調良好な日に外出を実現できた。

点滴しており外出は出来たが医師の判断で車の中から自宅を眺めた。手を掛けていた庭や神社は草が生い茂っていたがドライバーの運転技術で眺められる距離に駐車した。「最後に見れてよかった」とご本人も夫も大変喜んでおられた。

その後も以前話していた「夫ともっと思い出を作りたい」との思いが叶えられるよう本人の体調のいい日にはリクライニング車椅子へ離床し夫と施設の庭を散歩をしたり夏祭りの花火を見たり夫婦での思い出を作っていた。夫は毎日朝・夕面会し、最期の瞬間まで夫婦の時間を過ごして頂けた。令和7年9月にお亡くなりになられたが、チーム全体で素晴らしい看取りケアを実践できたと思う。今後もあらゆる形でその人が最期までその人らしく輝けるようour teamで取り組んでいきたい。

今回関わった職種：医師、看護師、理学療法士、作業療法士、介護福祉士、営繕（運転手）、言語聴覚士、相談員